

複合施設問題、東出雲町民の思いを受け止めて

吉儀敬子の一般質問①

吉儀敬子市議は、3月3日に議員として最後の一般質問を行いました。

第1の質問は、東出雲町公民館との複合施設問題です。

説明会で、場所について異議が出たにもかかわらず、教育

委員会は、自治連と地域協議会と町社協の3団体の合意が



吉儀 けい子
市議会議員

町民の意見であるとの解釈で、地域の皆さんも使えるように保健相談エリアに複合施設を決定したことについて、吉儀市議は、説明を尽くさなかった教育委員会の対応は、民主主義の問題として禍根を残したことを指摘しました。

町民から複合施設問題について「現支所エリアは、町民の思いの詰まった場所であり、スポレクゾーンとして活用して、保健相談エリアに複合施設を建設するなら、進入路の確保が必要」との意見があった。「児童クラブになる出雲郷公民館は、下意東と同じく

地域の皆さんも使えるようにすべき」と主張しました。

早弓康夫副教育長は「現支所エリアは、スポレクゾーンとして整備し、支所跡地は地域の活性化につながる対象への売却を考えている。保健相談エリアでの複合施設建設は、進入路の安全対策について関係部署と協議する。児童クラブが地域と交流を深めることは大切であり、出雲郷児童クラブ運営委員会や指導員と議論をしていきたい」と答弁しました。

子どもたちのトイレの洋式化を、遊び場の充実を

田中はじめ市議2月議会一般質問②

田中はじめ市議は一般質問で、「子ども達が使うトイレの洋式化を進めるべき。また、雨の日に子ども達が遊べる施設がないとの声を聞く。現状はどうか」と質しました。

学校等のトイレの洋式化を

これに対し、早弓康雄副教育



田中 肇
市議会議員

長が「小中学校のトイレ洋式化率は40・8%」と、船木忠子育て部長が「市立幼稚園、幼保園、保育所の子ども用トイレは洋式化済、職員用は37施設中33施設で今年度末整備済予定」と現状を回答しました。

雨の日に子どもたちが遊べる場を

遊び場の問題では、船木子育て部長が「9か所の子育て支援センターを設置しており、

就学前の子どもは雨の日も屋内で親子共に気軽に遊べる。昨年度、年間延べ8万5千人以上の利用があった」と現状を回答しました。

遊び場が足りないのか、周知不足なのか

田中市議が「施設はあるが周知不足なのか、やはり足りないのかの認識は」と質したのに対し、船木部長は「小学校入学以降対象の市運営施設はない」と回答しました。

二度と戦争の悲劇を繰り返さない社会を

橘祥朗市議の代表質問②



橘 祥朗
市議会議員

橘祥朗市議は、憲法平和を守ることに、「党市議団は市民の命を守る立場から憲法9条を取り上げてきた。昭和20年の終戦前、私の生まれた下関市は激しい空襲に見舞われ、中心市街地はほぼ全滅、私の生家もその被害から免れることはできなかった。生後間もない私は母に背負わ

れて防空壕に逃れはしたものの、次々逃げ込む人で、つぶされ、窒息しそうになり、年寄りの『背中に子どもを背負っている親は、前に抱きなおし息ができるように』との声で、私は前に抱きなおされ、生き延びたと母は話した。

「長崎に落とされた原爆は、当初は下関市からの直線距離が十数キロである小倉が予定されていた。もし小倉に原爆が落とされていたら、私はどうなっていたのかと考える」、「私が共産党の一員となり、このような場に立っている原

点の一つが、この空襲の体験や原爆とのかかわりなどの、何よりも平和でありたい、戦争で人命が失われることがあってはならないという思いからである。戦争の悲劇を体験してきたわが国の一人一人が、地方から、憲法を守ろう・平和とこそ声を上げていかなければならない」と述べ、市長の見解を問いました。

松浦市長は「改憲の是非を含め、国民が納得できる議論を政党間で、又、平和な社会が守れるような議論を」と答弁しました。

市民と共に歩んで…

「わたしたちの夢」

たちばなふみ



「母ちゃんの将来のゆめはなに？」小中一貫校に通う我が子たちは、中学を通り越して、どんな高校に行くか思いを巡らしている。2分の1成人式で将来の夢を発表すること

で聞いてきた。一年前のその頃は、「母ちゃんは今より将来だからなあ」な

どと答えてお茶をにごしていた。40才を過ぎ、なりたいたい職業にこれからチャレンジするようないざいだろうと思っていた。

先日、同級生と久々に集まった。昨年から近所で孤独死が続き、皆心を痛めていた。お年寄りのほか50代の方もいた。コロナ禍の外出自粛や、行事の中止や縮小、パートやアルバイトなどの仕事が少なくなっ

たことと、全く無関係とは思えない。改めてつながりの大切さなどを語り合った。

「慣れ親しんだこの町で、年をとっても皆に安心して過ごしてもらいたい、最期までその人らしく過ごせるような手助けがしたい」と一人の友人が語った。「閉鎖された福祉センターを、再び子どもと老人が共に憩う居場所にした」ともう一人の友人も語った。私たちにも将来の夢がある。より住み良い町にすること、誰でもが、お金の心配なく安心して年をとれる社会にすること、子どもたちが、自分らしく生きいきと遊ぶ町にすること。私の将来のゆめである。